

平成29年第2回定例会（9月議会）

## 農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

平成29年9月20日

農 林 水 産 部

# 目 次

- 1 ふるさと秋田農林水産ビジョン等の見直しについて [農林政策課] ----- 1  
    〔別冊資料1〕第2期ふるさと秋田農林水産ビジョンの検証
- 2 秋田米生産・販売戦略（案）の策定について [水田総合利用課] ----- 5  
    〔別冊資料2〕秋田米生産・販売戦略（案）
- 3 第11回全国和牛能力共進会の結果について [畜産振興課] ----- 6
- 4 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会の基本構想について  
    [水産漁港課] ----- 7
- 5 秋田県水と緑の森づくり税事業の次期計画策定について [森林整備課] ----- 11

# 1 ふるさと秋田農林水産ビジョン等の見直しについて

農林政策課

農林水産施策の基本計画となる「第3期ふるさと秋田農林水産ビジョン」について、現在、策定を進めている「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」との整合性を図るとともに、これまでの取組状況の検証や情勢変化等を踏まえ、見直しを行う（別紙1）。

## 1 検証と今後の方向性（案）

ふるさと秋田農林水産ビジョン等の主な取組や数値目標の進捗状況、農家等の声を踏まえ、成果と課題を検証し（別冊資料）、今後の取組の方向性を整理した。

- (1) ふるさと秋田農林水産ビジョンの検証と今後の方向性（案）について（別紙2）
- (2) 重点プロジェクトの方向性（案）について（別紙3）

## 2 見直しのスケジュール

時 期	農林水産ビジョン	元気創造プラン
平成29年 6月～8月	・ 農業者や関係団体等からの意見聴取	・ 総合政策審議会への説明及び意見交換 ・ 総合政策審議会専門部会への説明及び意見交換
9月	・ ビジョン等の検証と今後の方向性案 （9月議会で説明）	・ プラン骨子案の作成 （9月議会で説明）
10月	・ 農業者や関係団体等からの意見聴取	・ 総合政策審議会への提言及び意見交換
12月	・ ビジョン見直し素案の作成 （12月議会で説明） ・ パブリックコメントの実施	・ プラン素案の作成 （12月議会で説明） ・ パブリックコメントの実施
30年2月	・ ビジョン見直し案の作成 （2月議会で説明）	・ 総合政策審議会への説明及び意見交換 ・ プラン案の作成 （2月議会で説明）
3月	・ ビジョン見直しの成案化	・ プランの成案化

# 「元気創造プラン」と「農林水産ビジョン」の位置付けについて

別紙1

## 元気創造プラン

- 位置付け  
県の総合計画
- 期間  
H22～25年度(第1期)  
H26～29年度(第2期)  
H30～33年度(第3期)
- 重点戦略(第3期案)
  - 戦略1 定着回帰・少子化戦略
  - 戦略2 産業・エネルギー戦略
  - 戦略3 農林水産戦略
  - 戦略4 観光・交通戦略  
観光文化スポーツ部の施策との連携
  - 戦略5 健康・医療・福祉戦略
  - 戦略6 教育・人づくり戦略
- 基本政策(第3期案)  
防災・減災対策等の一部

## 農林水産ビジョン

- 位置付け  
農林水産業・農山漁村振興基本計画  
(秋田の農林水産業と農山漁村を元気づける条例)
- 期間  
H22～33年度(今回見直し後 H30年度～)

## 施策体系

### 推進事項

1. 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成
2. 複合型生産構造への転換の加速化
3. 戦略的な秋田米の生産・販売と水田フル活用
4. 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化
5. 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化
6. つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興
7. 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

重点プロジェクトの  
選定

## 重点推進事項

### 『新時代を勝ち抜く攻めの 農林水産戦略』 キーワード = “新時代”

将来の人口減少による労働力不足や産地間競争の激化を見据え、喫緊に取り組むべき課題を選定し、現行ビジョンにはない新たな視点による施策を重点化

#### ■ 重点項目の方向性

- 『新時代1』  
人口減少社会を見据えた多様な担い手・労働力確保
- 『新時代2』  
平成30年以降の産地間競争の激化を見据えた対応
- 『新時代3』  
時代をリードする先端技術の活用による農林水産業の振興
- 『新時代4』  
企業とタイアップした流通・販売体制の構築

## 【これまでの取組と主な成果】

### ■えだまめ出荷量日本一を達成

・東京都中央卸売市場入荷量において、2年連続日本一達成

### ■県内の園芸振興をリードする園芸メガ団地等の整備

・メガ団地を10地区、ネットワーク型を10地区で整備  
・ねぎや花きの産地化が進展し、過去最高の販売額

### ■県産牛の新たなブランド「秋田牛」のデビュー

・首都圏での情報発信拠点となる「秋田牛」専門店が銀座にオープンするとともに、27年度よりタイに輸出を開始

### ■秋田米の品種・商品ラインナップの充実

・「秋のきらめき」、「つぶぞろい」に加え、「極上あきたこまち」等の差別化商品づくりのほか、極良食味米の開発を推進

### ■農地中間管理機構の活用による農地集積が進展

・機構による農地集積・集約化に取り組んだ結果、担い手への新規集積が全国一となり、農地集積率が71.5%まで向上

### ■原木の低コスト生産と木材・木製品の安定供給体制の構築

・原木の低コスト生産体制の構築や木材加工流通施設の整備、木製品の販路開拓を推進した結果、素材生産量や製品出荷量が増加

### ■秋田林業大学を核とした人材育成の推進

・秋田林業大学を開講し、専門家によるサポートチームの協力のもと、専門性と実践力を高める研修を実施

## 【現状と課題】

### ■複合型生産構造への転換の加速化

・多様な大規模園芸拠点の全県展開による一層の生産拡大が必要  
・秋田牛ブランドを支える肥育素牛の生産体制強化が喫緊の課題

### ■米政策の見直しに対応した攻めの米づくりの推進

・県産米シェアの拡大や実需を的確に捉えた販売戦略が必要

### ■6次産業化に取り組む経営体の事業規模拡大

・JA等による大規模な6次産業化の取組を一層推進する必要

### ■農産物の販売力強化に向けた流通販売体制の整備

・企業による産地囲い込みなど新たな動きへの対応

### ■地域農業を牽引する担い手の育成

・経営規模の拡大や複合化の推進など経営基盤の強化が必要

### ■地域を生かす中山間地対策

・生産条件が不利な地域においては、耕作放棄地の拡大等が懸念

### ■水産物のブランド確立と新たな水産ビジネスの展開

・高付加価値化・ブランド化による魚価の上昇と所得向上が課題

### ■「ウッドファーストあきた」の促進と木材・木製品の需要拡大

・県産材の更なる需要拡大が必要

## 【施策の概要】 ※重点プロジェクトは【別紙3】参照

### ■施策1 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

- ◆方向性① 秋田の農業をリードする競争力の高い経営体づくり
- ◆方向性② 幅広い年齢層からの新規就業者の創出
- ◆方向性③ 多様なルートから秋田に呼び込む移住就業の促進
- ◆方向性④ 農業労働力の安定確保と農作業の軽労化の促進
- ◆方向性⑤ 秋田で活躍する女性の活動支援

### ■施策2 複合型生産構造への転換の加速化

- ◆方向性① 大規模園芸拠点を核とした戦略作目の更なる振興
- ◆方向性② 「しいたけ」や「えだまめ」など日本一を目指す園芸産地づくり
- ◆方向性③ 秋田のオリジナル品種による果樹・花きの生産振興
- ◆方向性④ 大規模畜産団地の全県展開
- ◆方向性⑤ 秋田牛や比内地鶏など秋田ブランドによる畜産振興
- ◆方向性⑥ 先端技術と融合したアグリテックによる生産効率の向上
- ◆方向性⑦ 秋田の農林水産業の発展を支える研究開発の推進

### ■施策3 戦略的な秋田米の生産・販売と水田フル活用

- ◆方向性① 業務用や特定需要など実需と結びついた米づくりの推進
- ◆方向性② 次代を担う秋田米新品種デビューと販売強化
- ◆方向性③ 省力化技術やICT導入による超低コスト稲作経営の展開
- ◆方向性④ 複合型生産構造への転換を支える基盤整備の促進

### ■施策4 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

- ◆方向性① 異業種連携による大規模な6次産業化の展開
- ◆方向性② 企業とタイアップした流通・販売体制の構築
- ◆方向性③ 秋田の強みを生かした農林水産物の輸出促進
- ◆方向性④ 秋田のうまいもの商品力向上と販路拡大(観光文化スポーツ部)
- ◆方向性⑤ GAP等による安全・安心対策の強化と環境保全型農業の推進

### ■施策5 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

- ◆方向性① 秋田スギを活用した新たな木質部材等による需要拡大
- ◆方向性② 林業の成長産業化に向けた生産・流通体制の強化
- ◆方向性③ 産地間競争に打ち勝つ木材総合加工産地づくりの推進
- ◆方向性④ 次代の秋田の林業をリードする人材育成

### ■施策6 つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

- ◆方向性① つくり育てる漁業の推進による水産資源の維持・増大
- ◆方向性② 秋田の海・川資源を生かした水産ビジネスの展開
- ◆方向性③ 漁港等生産基盤の整備促進
- ◆方向性④ 全国豊かな海づくり大会等を契機とした水産業の活力向上

### ■施策7 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

- ◆方向性① 多様な資源を生かした地域ビジネスの展開
- ◆方向性② 里地里山の保全管理と鳥獣被害対策の強化
- ◆方向性③ 森林の多面的機能の高度発揮

## 【主な取組】

- 新 大規模農業法人等トップランナーの育成
- 新 中年層を含む多様なルートからの新規就農者の確保・育成
- 新 移住就業希望者に対するトライアル研修の実施
- 新 先進的な労働調整モデルの展開とサポート体制の構築
- 新 ロボット技術等による軽労化対策の強化
- アグリビジネスを通じた女性が活躍できる環境づくり

- メガ団地等の大規模園芸拠点の全県展開
- 新 日本一を目指す「しいたけ」の生産振興と販売促進
- 市場評価の高い県オリジナル品種の生産拡大
- 大規模畜産団地による生産基盤の強化
- 国内外における秋田牛の認知度向上
- 比内地鶏の生産基盤の強化と新たな需要創出
- 新 スマート農業による園芸生産システムの実証・普及

- 新 販売を起点とした秋田米生産販売戦略の推進
- 新 多様なニーズに機動的に対応できる米産地の確立
- 新 秋田米の新品種開発とデビュー対策の実施
- 省力・低コスト技術の実証・普及による生産費低減の推進
- 産地づくりと一体となったほ場整備の推進
- 高品質・高収量を実現する地下かんがいシステム等の整備

- JAによる6次産業化の促進と異業種連携の強化
- 中食・外食企業との連携による流通・販売体制の構築
- ターゲットを絞った秋田の農林水産物の輸出促進
- 新 秋田スギ家具をはじめとする県産木材製品の海外展開
- 幅広いパートナー企業や流通チャネルを活用した販路の拡大
- 新 GAPの普及拡大

- 県民に対する木材の優先利用の普及
- 新 新たな木質部材の開発・普及と木質構造等に精通した人材育成
- 路網と高性能林業機械の整備促進
- 新 丸太の用途別需要に応じた流通システムの整備
- 新 皆伐・再造林の取組推進

- 新 栽培漁業施設の整備と機能強化
- 科学的データに基づく適切な資源管理による漁獲量の安定化
- 秋田の地魚を使った加工品開発の促進と販路拡大
- 漁港施設の計画的な整備と長寿命化等の促進
- 新 地魚や漁村文化等の魅力発信と未来への継承

- 農業者等の多様な地域資源を生かした取組への支援
- 新 条件不利地域における営農継続に向けた支援
- 農産物の鳥獣被害対策の強化
- 地域コミュニティの持続的な発展を支える仕組みづくり
- 松くい虫やナラ枯れ被害等の森林病害虫対策の推進



## 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略

### 〔時代の潮流〕

- ・我が国の労働力人口の減少を背景に、労働集約型産業等での構造的な労働力不足
- ・農政改革や国際通商協定等による産地間競争の激化や流通・販売構造の改革
- ・ICTやAI、ロボット技術等を駆使した次世代型農林水産業の推進

キーワード・・・“新時代”

### これまでの取組の成果

- 農業については、メガ団地の整備等により、枝豆やねぎ、キク等の産地拡大が飛躍的に進んだほか、新ブランド「秋田牛」のデビューや、果樹・花きのオリジナル品種の育成など、将来の本県農業の核となる基盤が整備され、平成27年の農業産出額の伸び率は全国一位。
- 林業については、ウッドファーストあきた県民運動を展開しながら丸太の供給体制や木材加工流通施設の整備等に努めてきた結果、平成20年と比べて、素材生産量が約5割、木材生産の出荷量も約3割それぞれ増加するなど、本県が目指す木材総合加工産地づくりが着実に進展。

### 新戦略の基本的な方向

- これまでの「米依存からの脱却」を掲げた取組により、着実に成果が現れつつある本県農業の構造改革について、もう一段ステップアップした取組を進めていく
- 加えて、上記の社会情勢の変化に的確に対応するため、新たな視点を踏まえながら、農林水産業の成長産業化に取り組む
- 日本一のスギ資源の活用に向け、新たな市場の開拓等に取り組み、木材利用を一層促進していくとともに、秋田林業大学校を核とした人材育成など、生産体制の強化を図っていく

## 新時代 「人口減少社会を見据えた多様な担い手・労働力確保」

- **次代を担う農林水産業の多様な担い手の確保・育成**
  - ・新規就農者の確保と就業構造としてバランスのとれた年齢構成の構築
  - ・秋田林業大学校での高性能林業機械の研修拡充による、高い技術を持った人材の育成
  - ・県内外の漁業就業希望者への体験研修の実施、自立志向者を対象にした本格的な研修の実施
- **多様なルートから秋田に呼び込む移住就業の促進**
  - ・移住者の技術習得から経営の開始・定着に至るまで、ソフト・ハードの両面から総合的に支援
- **農業労働力の安定確保と農作業の軽労化の促進**
  - ・先進的な「秋田型」労働力調整モデルの展開とサポート体制の充実  
(高齢者労働力等の活用可能性、外国人技能実習生の受入可能性の検討、労働力調整、生産・労務管理支援等)
  - ・農作業の軽労化のため、パワーアシストスーツなどロボット技術の普及拡大



## 新時代 「平成30年以降の産地間競争の激化を見据えた対応」

- <複合型生産構造への転換の加速化>
  - **大規模園芸拠点、大規模畜産団地を核とした戦略作目の拡大**
    - ・園芸メガ団地等の大規模園芸拠点の全県展開による大規模経営体の育成
    - ・大規模畜産団地の全県展開による畜産生産基盤の強化
  - **しいたけや枝豆など日本一を目指す園芸産地づくり**
    - ・しいたけなどを重点品目と位置づけ、枝豆に続く日本一産地の拡大
  - **産地づくりと一体となった基盤整備の促進**
    - ・ほ場整備+農地中間管理機構を活用した集積+園芸団地を三位一体で推進
    - ・高収益作物等の導入に必要な地下かんがい等の整備を担い手のニーズに沿ってきめ細かく実施
- <戦略的な秋田米の生産・販売>
  - **業務用や特定需要など実需と結びついた米づくりの推進**
    - ・業務用米にも機動的に対応できるオールラウンダーとしての米産地の確立
  - **次代を担う秋田米新品種デビューによる販売強化**
    - ・次代のプライスリーダーとなる極良食味米の開発と、生産から販売に至るデビュー対策の実施



## 新時代 「時代をリードする先端技術の活用による農林水産業の振興」

- <農業の振興>
  - **先端技術と融合したアグリテックによる生産効率の向上**
    - ・ICT活用による農作物の最適な生育環境を自動制御する新技術の実証・普及
  - **省力化技術やICT導入による超低コスト稲作経営の展開**
    - ・ICT等を活用した管理技術の効率化による生産費の低減
- <林業・木材産業の振興>
  - **秋田スギを活用した新たな木質部材等による需要拡大**
    - ・新たな木材需要の創出が期待されるCLT等の新たな木質部材の開発
    - ・東京オリンピック需要を契機とした県産木材製品の県内外での需要拡大
  - **新時代を見据えた秋田スギ循環利用の促進**
    - ・タワーヤーダの導入等による新たな丸太生産システムの構築
    - ・ICTを活用した山元土場における丸太径級データベース化など出荷管理システムの構築
    - ・クラウドによる素材生産者と木材加工業者の情報共有化、マッチング機能の強化
- <水産業の振興>
  - **最新技術に対応した栽培漁業施設の活用による資源の維持・増大**
    - ・水循環飼育システム導入によるキジハタやトラフグ等、収益性の高い種苗の生産・放流
    - ・海洋環境の変動に対応した新たなハタハタ資源管理の推進



## 新時代 「企業とタイアップした流通販売体制の構築」

- **秋田の強みを生かした農林水産物の輸出促進**
  - ・海外に販路を持つ企業と連携し、ターゲットを定めた輸出を促進
  - ・イタリア(ミラノ)の展覧会における秋田スギ家具製品のPR等による秋田スギのブランド力の向上
- **企業とタイアップした流通・販売体制の構築**
  - ・企業による産地囲い込みの動きに対応した生産者の組織化の推進
  - ・企業との連携による新たな生産流通体制の整備
- **GAP等による安全・安心対策の強化**
  - ・東京オリンピックを契機にスタンダード化が見込まれる農業生産工程管理(GAP)の取組拡大





戦略策定のポイント

■ 目的

平成30年からの米政策の見直しに対応し、生産者、農業団体、行政等が一体となって需要に応じた米づくりに取り組んでいくための指針

■ 計画期間 平成29～33年度(5年間)

■ ポイント

- 「実需と固く結びつく米産地」への転換
  - 近年増加する業務用需要への的確な対応
  - 低価格帯での流通に対応できる低コスト稲作の確立
- 「あきたこまち」のリブランド
- 「コシヒカリを超える極良食味品種」のデビュー対策

目指す姿と指標(KGI)の設定

■ お米のオールラウンダーをめざして

- ・高品質・低コストで競争力の高い米づくりの展開
- ・様々なニーズに的確に対応できる産地

■ 推進体制

秋田米生産・販売戦略推進会議(仮称)

《業務》 戦略の推進・成果検証、推進施策の検討等  
 《構成》 JA中央会、全農あきた、JA、主食集荷、市町村、県、等

専門部会

新米種・プレミアム部門 業務・加工用部門 酒造好適米部門 種子生産部門

■ 達成指標(KGI)

達成指標(KGI)	現状(H27)	目標(H33)
全国に占める秋田米のシェア(%)	5.47	5.66

※ 現状値はH23～27までの5年平均(5中3)

I 拡大が見込まれるマーケットへの対応

1 高まる業務用需要への対応

業務用米のシェアを4割に拡大  
22%(H27) → 40%(H33)

➢ 業務用米の安定生産・供給の推進

- ◆ 「あきたこまち」等は、食味・品質によりプレミアムとレギュラーに区分し、レギュラーを業務用にも販売
- ◆ 「めんこいな」「ゆめおぼこ」など、多彩な品種ラインナップによる多様な業務用ニーズへの対応
- ◆ 集荷団体や農業法人等に対する販路開拓の支援 など

2 新たな受け皿としての海外市場の開拓

取引が確立・拡大した米の輸出ルート数  
— (H27) → 5件(H33)

➢ 高級米市場での需要確保と業務用需要の開拓

- ◆ 香港・シンガポールなど日本産米の定着市場における日本食レストラン等への需要開拓  
マレーシア・ベトナムなど成長国における現地企業とのパイプづくりの推進
- ◆ JA全農全国本部の取組とのタイアップや海外展開する外食企業等との連携による需要開拓 など

3 酒米など特定需要に対する取組の強化

➢ 酒米の販路拡大や特定需要に対応した米づくり

- ◆ 酒造適性の高い酒米生産に向けた品質基準や栽培指針の策定
- ◆ 健康食品メーカー等と連携した巨大胚芽米の活用や介護向け「スマイルケア食品」の開発 など

4 販路の拡大と安定的な取引の推進

➢ 実需者との結びつきの強化による取引の拡大、播種前契約や複数年契約の推進 など

IV 将来を見据えた米の高付加価値化と需要の創出

1 消費者に訴求する多様な米づくりの推進

GAP(水稻)に取り組むJA数  
8JA(H27) → 15JA(H33)

- 有機・特裁米等の生産拡大やGAPの普及
- 中山間地域の特性を活かした米づくりなどによる産地と消費者との結びつきの強化
- 食のトレンドを踏まえた機能性米の開発や需要の創出 など

2 「ごはんの日」の普及などによる秋田米の消費拡大

➢ 県ごはん食推進会議等と連携した秋田米の県内消費の拡大 など

II 米どころ秋田の強みを生かしたブランド力向上

プレミアム規格米の拡大  
28千トン(H27) → 32千トン(H33)

1 秋田米のブランド力の強化

➢ 「あきたこまち」をはじめ、秋田米の食味・品質を底上げするリブランド対策の展開

- ◆ 食味等にこだわった「あきたこまち」等のプレミアム商品づくりと販売量の拡大
- ◆ 「ひとめぼれ」「ゆめおぼこ」「つぶぞろい」「秋のきらめき」の区分集荷による特徴を生かした商品づくり
- ◆ 実需者や卸売業者の意見に加え、食味ランキングなどの外部評価の効果的な活用
- ◆ 中食・外食や調理器具メーカーなど幅広い企業と連携したプロモーションの展開、秋田米の販売量が少ない地域における認知度向上と販路拡大 など

2 極良食味品種の開発・デビュー対策

➢ 秋田米のプライスリーダーとなる極良食味新品種を平成32年度にプレデビュー

- ◆ 品種登録申請の目途が立った段階で、知事をトップとした「新品種ブランド化戦略本部(仮称)」の設置
- ◆ 栽培マニュアルの策定や産地・生産者の絞り込み、実売に結びつくプロモーションなど、総合的な生産・販売対策の展開 など

III 低コスト生産・流通体制の整備

大規模経営体の60kg当たりの費用合計  
10,500円(H27) → 9,000円(H33)

1 低コスト生産技術体系の確立・普及

➢ 低価格帯でも再生産が可能な低コスト稲作技術の確立・普及

- ◆ 多収性品種など複数品種の組み合わせによる作業分散と農業機械の効率的な活用
- ◆ 直播栽培や高密度播種育苗・疎植栽培等の導入による生産コストの削減
- ◆ ICTを活用した水管理システム等による労働時間の削減 など

2 生産資材・機械・流通コストの低減

➢ 低コスト技術と資材低減対策のパッケージ化による農業法人等への導入促進

➢ カントリーエレベーターの優先利用や大口割引制度の導入、農業法人等の連携による保管・配送の共同化など幅広い観点からの流通コストの削減 など

3 生産を下支えする種子・品種対策

➢ 種子の需給調整等を協議する組織の設置や優良種子の安定供給

➢ 国や民間が育成した品種の積極的な活用 など

### 3 第11回全国和牛能力共進会の結果について

畜産振興課

#### 1 共進会の開催概要

- (1) 期 日 平成29年9月7日(木)～11日(月)  
 (2) 会 場 種牛の部：夢メッセみやぎ  
 肉牛の部：仙台市食肉市場  
 (3) 参加県数 39道府県  
 (4) 出品頭数 513頭(繁殖雌牛308頭、種雄牛候補22頭、肥育牛183頭)  
 うち本県 19頭( 〃 10頭、 〃 1頭、 〃 8頭)

#### 2 本県出品牛の結果と対応

- 上位入賞を目指していた肉牛の部では、宮崎県や鹿児島県など九州勢が上位を独占し、本県出品牛は最高位で1等賞に止まった。
- 優等賞入賞を目指していた種牛の部では、若雄の体型を競う第1区で「義勝」が優等賞14席(全国14位)を獲得し、父牛である「義平福」の後継牛として期待される。
- 今後、成績を詳細に分析し、次の種雄牛づくりや雌牛の改良に活かしながら、秋田牛の生産拡大とブランド確立を進めていく。

#### <本県からの出品牛19頭の審査結果>

出 品 区		月 齢 等	出 品 牛 名 号	父 牛 (※1)	出 品 者		等 級 (※2)	優等1席	
種牛の部	第1区	若雄	15～23カ月	義 勝	義平福	秋田県 県畜産試験場	優等賞14席	鹿児島県	
	第2区	若雌の1	14～17カ月	ただてる	美津照重	由利本荘市 佐藤 久一	1等賞3席	宮城県	
	第3区	若雌の2	17～20カ月	ゆりひかる	百合茂	由利本荘市 佐藤 文一	1等賞9席	鹿児島県	
	第5区	繁殖雌牛群 (1群4頭)	3産以上	ふくひさ	安福久	由利本荘市 太田 良治	1等賞6席	宮崎県	
				ゆりひめ	百合茂	由利本荘市 木島 賢蔵			
				ひめゆき	平茂勝	由利本荘市 菊地 栄一			
				かつはる	勝忠平	由利本荘市 小野 真一			
	第7区	総合評価群	種牛群 (1群4頭) 17～24カ月	ひまわり	義平福	仙北市 田口 春美	種牛群 16位	1等賞 6席	宮崎県
				さちふく	義平福	由利本荘市 伊東 春雄			
				第86うるしばら	義平福	仙北市 相馬 勲			
よしふく				義平福	大仙市 細谷 清俊				
肉牛群 (1群3頭) 24カ月未満			北乃華337	義平福	秋田市 高橋 寿	肉牛群 13位			
			義 勝	義平福	大仙市 黒川 一康				
肉牛の部	第8区	若雄後代 検定牛群 (1群3頭)	24カ月未満	松 百 合	松糸華	湯沢市 高橋 満	1等賞	宮崎県	
				松華晴2714	松糸華	秋田市 高橋 寿			
				松 華	松糸華	仙北市 伊藤 則夫			
	第9区	去勢肥育牛	24カ月未満	義 良	義平福	由利本荘市 板垣 幸三	1等賞	鹿児島県	
				黄金27乃19	義平福	湯沢市 高橋 満	2等賞		
	合 計			19頭					

※1 「父牛」欄においてゴシック体で記載しているものは、県有種雄牛。

※2 等級には優等賞、1等賞、2等賞の3区分があり、各賞の中にさらに席次が設けられているが、第8区及び第9区の1等賞以下においては席次は無く同列。



## 4 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会の基本構想について

水産漁港課

平成31年度に本県を会場として開催される第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会の準備と運営を円滑に行うため、本年8月18日に第1回秋田県実行委員会を開催し、大会の基本構想を決定した。

### 1 秋田県実行委員会の体制

#### (1) 実行委員会

- ・会 長：秋田県知事
- ・副 会 長：秋田県漁業協同組合代表理事組合長、秋田市長
- ・顧 問：秋田県議会議長、秋田県議会農林水産委員長、秋田市議会議長
- ・委 員：水産団体、農林団体、商工経済観光団体、輸送団体、国、県、市町村等
- ・参 与：報道機関

#### (2) 幹 事 会（幹事長：秋田県農林水産部長）

#### (3) 専門部会（総務・接遇部会、行事運営・広報部会、宿泊・輸送等部会）

### 2 基本構想

別紙のとおり。

### 3 今後のスケジュール

- ・平成29年9月～ 実行委員会幹事会及び専門部会の設立  
大会テーマ・キャラクターの募集
- ・ 〃 11月頃 お手渡し・放流魚種の絞り込み
- ・平成30年1月～ 基本計画案の作成開始
- ・ 〃 3月 幹事会（基本計画案の策定）  
〔 大会テーマ・キャラクターの審査・入賞作品選定  
お手渡し・放流魚種の最終案決定 〕

(別 紙)

## 第39回全国豊かな海づくり大会基本構想

### 1 開催意義

#### (1) 秋田の水産業振興と漁村地域の活性化

東北地方の北西部に位置する秋田県は、日本海に面した雄大な自然に恵まれています。中でも、世界自然遺産の白神山地や秀麗な鳥海山をはじめ、美しい景色が続く男鹿半島は、国内でも人気の観光スポットです。また、海岸部の約7割を占める砂浜海岸では、日本海に注ぐ米代川や雄物川、子吉川の三大河川沿いに、米どころ秋田を支える肥沃な平野が開けています。

本県沖は、対馬海流（暖流）とリマン海流（寒流）が流れ込むことから、多種多様な魚介類が生息しています。底びき網や定置網、さし網などによって水揚げされる魚介類は150種類以上で、中でもハタハタや北限の産卵場を有するトラフグ・マダイ、鳥海山の伏流水で育つイワガキなどは、本県を代表する水産物といえます。

近年の漁業環境の変化など水産業を取り巻く様々な課題を克服するため、本県では、漁業者と自治体などが一体となって「つくり育てる漁業」を重点的に推進し、県産水産物の高付加価値化やブランド化に向けた多彩な取組も積極的に行っています。

秋田県民歌で「山水皆これ、詩の国」と謳われている秋田の地において、全国豊かな海づくり大会を開催することは、多様な自然環境と魚介類に恵まれた本県の水産業を、全国の皆様に広く知っていただく絶好の機会となります。これを機に、秋田の魅力に磨きをかけ、全国から訪れる方々との交流を通じて、水産業の振興と漁村の活性化につなげていきます。

#### (2) 豊かな海を育む森と河川・湖沼の保全と未来への継承

東部の県境には奥羽山脈が縦走し、八幡平や駒ヶ岳、栗駒山などの豊かな森は、清冽な河川の源となって多様な生き物を育み、母なる日本海へとつながっています。サケやサクラマス、アユ、イワナなど、「命の水系」の恵みをいただく内水面の漁業者は、平成15年3月に制定された「秋田県水と緑の条例」の趣旨に沿いながら、水源から海に至る生態系のバランスのとれた水環境の保全・管理を通じて、持続的に資源を活用しています。

また、本県には、十和田湖と田沢湖、八郎湖の三つの湖があり、これら三湖を舞台とした壮大なスケールの「秋田龍神伝説」は今なお脈々と語り継がれ、秋田の創世を物語る民話となっています。その十和田湖ではヒメマス、八郎湖ではワカサギが主な漁獲対象種であり、田沢湖では戦前、固有種である「奇跡の魚・クニマス」も捕られていました。

今回の全国豊かな海づくり大会では、森から河川・湖沼を経て海へと至る自然環境の保全と、そこに育まれる生命の大切さについて、県内外に力強くアピールしていきます。

### (3) 秋田の海にまつわる歴史・食文化の魅力の発信

本県沿岸の多様な魚介類は、県民の食生活に恵みと潤いを与え、独特の食文化を育んできました。特に、秋田県民にとって特別な存在である県の魚ハタハタについては、資源量の激減を受け、平成4年から3年間、自主的な全面禁漁に取り組み、その後、恒常的な資源管理を続けています。長らく本県の漁業経営を支えてきたハタハタは、しょっつる（魚醬）や飯ずしなどの伝統食の素材としても、本県の食文化を牽引してきました。

また、北前船の舟運が発達した江戸時代には、米や酒をはじめ、魚肥や秋田杉、銀・銅などの特産物を上方に運び、経済と文化が行き交う交易圏を形成するなど、本県独自の歴史と文化を創り出してきました。

今回の全国豊かな海づくり大会では、長年にわたって培ってきた、こうした本県の歴史・文化と食の魅力を全国に向けて発信していきます。

## 2 基本理念

秋田県の特徴ある水産物や農山漁村地域の環境・歴史・文化などの魅力を全国に広く発信するとともに、水産業の振興と観光との融合による地域の活性化を図ります。

## 3 基本方針

### (1) つくり育てる漁業を中心とした水産業の振興と地域の活性化

漁業者の所得向上や漁村の活性化など、本県水産業の現状と課題をしっかりと見据えて、平成30年度にリニューアルする秋田県水産振興センター栽培漁業施設を核としながら、「つくり育てる漁業」を進化・発展させるとともに、「漁業後継者の育成・確保」や「水産加工品の開発・販売」などに重点的に取り組み、本県水産業の振興と地域の活性化につなげる大会とします。

### (2) 豊かな自然環境の保全・利活用

海や河川・湖沼がもたらす豊かな恵みに深く感謝し、守り育てる意識を育むとともに、将来にわたって自然環境と共生し、地域資源の効果的な活用を目指す大会とします。

### (3) 観光と水産との融合

観光との融合を図りながら、本県の歴史に根付いた魚食・漁村文化や豊かで美しい自然環境などの魅力を発信し、未来へと継承する大会とします。

### (4) 秋田の魅力とまごころあふれる大会のアピール

県民総参加のもと、豊かな自然や多彩な伝統文化、食文化を誇る秋田において、全国から訪れる方々を秋田らしいまごころを込めて迎えるおもてなしの大会とします。



#### 4 大会の概要

- (1) 名 称 第39回全国豊かな海づくり大会・あきた大会
- (2) 主 催 豊かな海づくり大会推進委員会  
第39回全国豊かな海づくり大会秋田県実行委員会
- (3) 開催時期 平成31年秋季（土曜日・日曜日の2日間）
- (4) 開催場所
  - ア 式典 行 事：秋田県立武道館（秋田市）
  - イ 海上歓迎・放流行事：秋 田 港（秋田市）
- (5) 行事内容
  - ア 式典行事  
功績団体の表彰、最優秀作文の発表、漁業後継者の決意表明、大会決議 等
  - イ 海上歓迎・放流行事  
漁船などによる海上歓迎パレード、稚魚放流 等
  - ウ 歓迎レセプション  
本県農林水産物の食材によるおもてなし 等
  - エ 関連行事  
各種コンクール優秀作品の展示、企画展示・特産品販売 等
- (6) 大 会 テ ー マ 公募により決定
- (7) 大会キャラクター 県のPRキャラクター「んだッチ」とし、コスチュームデザインを公募

## 5 秋田県水と緑の森づくり税事業の次期計画策定について

森林整備課

平成20年度から実施してきた秋田県水と緑の森づくり税事業の第2期計画5カ年の実施状況（見込み）と次期計画の策定については、次のとおりである。

### 1 第2期計画（平成25～29年度）の実施状況

- ・ 水と緑の森づくり事業（ハード事業）では、針広混交林化や広葉樹林再生、マツ林ナラ林等健全化、ふれあいの森整備で、森林整備目標4,890haに対し約4,300haを整備。
- ・ 水と緑の森づくり推進事業（ソフト事業）では、森林ボランティア活動や森林環境学習、森林祭等で、森づくり活動参加目標86,200人に対し、104,800人が参加。

### 2 次期計画の策定

今年度は、森づくり税事業第2期実施期間の5年目であることから、これまでの事業の実施状況や効果、森林環境の保全に関する状況の変化等を踏まえ、次期計画（平成30～34年度）を策定する（基本方向については別紙）。

#### 【参考】計画策定スケジュール

平成28年10月	・ 県民（2,000人）と企業（1,000社）を対象にアンケートを実施
平成29年 5月～7月	・ 「水と緑の森づくり基金運営委員会」等で、第2期計画の総括及び次期計画の基本方向を検討（2回）
9月	・ 県議会に次期計画の基本方向について説明
10月	・ 県民や市町村、森林・林業関係者、森林ボランティア団体、企業等を対象に説明会を開催し意見を集約
11月	・ パブリックコメントの実施
12月	・ 次期計画（案）を「水と緑の森づくり基金運営委員会」において検討 ・ 県議会へ次期計画（案）を説明
30年2月	・ 県議会へ次期計画（最終案）を説明し、決定
3月	・ 「水と緑の森づくり基金運営委員会」へ次期計画を報告

## 【参考】

### 国の森林環境税（仮称）について

- ・総務省では、市町村が主体となって実施する森林整備等に必要な財源に充てるための森林環境税（仮称）の創設に向けて、具体的な仕組み等を協議する「森林吸収源対策税制に関する検討会」を、今年4月に設置。
- ・同検討会はこれまでに5回開催され、用途や税の徴収方法等について議論。用途については、市町村主体による条件不利地等での間伐等が検討されている。
- ・次回（10月上旬頃を予定）の第6回検討会で、事務局から提出される中間とりまとめ案について議論する予定。
- ・最終報告を経て、平成30年度税制改正大綱に反映される予定。



# 秋田県水と緑の森づくり税事業 次期計画の基本方向について（素案）

別紙

## 1 水と緑の森づくり事業（ハード事業 H25～H29）～ 森林環境や公益性を重視した森づくり～

※下線部が拡充する内容

【4,890haの整備目標 → 4,299haを整備(88%)】

事業名	事業内容・実績見込み
● 豊かな森づくり ～ 里山林等の健全な生態系の維持回復～	
針広混交林化事業	生育の思わしくないスギ人工林などを公益的機能の高い混交林に誘導 (計画 1,000ha → 実施 987ha)
広葉樹林再生事業	過去に損なわれた森林環境を生態系の健全性に配慮した広葉樹林への再生を図る (計画 60ha → 実施 46ha)
● 暮らしを守る森づくり ～ マツ林・ナラ林等の健全化～	
マツ林・ナラ林等健全化事業	マツやナラ枯れ枯損木の伐採および植栽 (計画 6.4万m <sup>3</sup> → 実施 6.2万m <sup>3</sup> )
● ふれあいの森づくり ～ 森と遊び、学び、暮らす～	
ふれあいの森整備事業	「森林浴リフレッシュの森」、「湧水・名水の森」、「ボランティアの森」、「学びの森」の4つの視点で、森林とふれあえる拠点を整備 (計画 40カ所 → 実施 36カ所)

5カ年の状況変化や意見・要望
・災害に強い森づくりを引き続き実施 ・荒れている里山の再生 ・クマ等の出没増加への対策
・災害防止に向けた裸地等の整備 ・植栽後、長期的な整備
・急増するナラ枯れの被害への対策 ・被害が目立つ主要道路沿いや観光地等で景観対策
・木育を体験できる場の提供 ・長寿高齢化社会に向けて、健康増進への森林の活用

## ◆ 次期計画の基本方向 ◆

(H30～H34)

事業名	主な事業内容
● 豊かな森づくり ～ 里山林等の健全な生態系の維持回復～	
豊かな里山林整備事業 (名称変更、拡充)	・集落周辺等の暮らしに身近な里山林を中心に、針広混交林化への誘導や広葉樹林の再生を実施 ・通学路や主要道路沿いの森林の整備(藪払い、枝払い、整理伐等) ・クマ等の野生動物との棲み分けを図るための森林の整備(緩衝帯等)
● 美しい森づくり ～ マツ林・ナラ林等の健全化～	
マツ林・ナラ林等景観向上事業 (名称変更、拡充)	・主要道路沿いや観光地等の森林を特に配慮したマツやナラ林等の枯損木の伐採および植栽 ・伐採木(枯損木や危険木)の破砕処理等を含め、対策を強化
● ふれあいの森づくり ～ 森や木と遊び、学び、暮らす～	
森や木とのふれあい空間整備事業 (名称変更、拡充)	・「森林浴リフレッシュ・健康づくりの森」、「湧水・名水の森」、「ボランティアの森」、「学びの森」の4つの視点で、森林とふれあえる拠点を整備 ・街中における親子で木とふれあえる木育体験空間の整備

## 2 水と緑の森づくり推進事業（ソフト事業 H25～H29）～ 県民参加の森づくり～

【86,200人の参加目標 → 104,800人が参加(122%)】

(H30～H34)

事業名	事業内容・実績見込み
● みんなでつくる森 ～ 県民参加の森づくり～	
県民参加の森づくり事業	・森林ボランティア活動への支援 (計画 100件 → 実施 110件) ・県民提案による森づくり活動等への支援 (計画 170件 → 実施 153件) ・市町村等による森づくり活動への支援 (計画 70件 → 実施 52件)
森林環境教育推進事業	・児童や生徒等の森林環境学習の支援 (計画 250件 → 実施 256件) ・教員を対象とした指導者養成研修の実施 (計画 200人 → 実施 131人) ・林業大学校での森林整備を担う人材の育成等
普及啓発事業	・森林祭等の開催 ・森林の調査・研究、教育・普及資料作成 ・基金運営委員会の開催など

5カ年の状況変化や意見・要望
・クマ等の出没増加への対策強化 ・補助対象の緩和や上限額の引き上げ
・学校や幼稚園等での森林環境教育における指導者の育成 ・森づくりを担う若手の人材育成
・森林ボランティア団体のイベントやフィールド等の情報発信の強化 ・税事業のPR強化

事業名	主な事業内容
● みんなでつくる森 ～ 県民参加の森づくり～	
県民参加の森づくり事業 (拡充)	・森林ボランティア団体、県民提案、市町村等による県民参加の森づくり活動を引き続き支援 クマの被害予防対策の強化等
森林環境教育推進事業 (森づくりの人材育成) (拡充)	・幼児の自然体験や児童・生徒等の森林環境学習の支援 ・学習交流の森などを活用した中学生の林業体験学習の実施 ・地域のボランティア活動を支える指導者等の育成 ・教員、保育士やボランティア指導者等を対象とした環境教育指導者の育成 ・林業大学校での森林整備を担う人材の育成等
普及啓発事業 (拡充)	・森林祭等の開催 ・森林の調査・研究、教育・普及資料作成 ・森づくり活動や税事業の情報発信、PR体制の強化